

南北朝の動乱と室町幕府

1 / 1

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

建武の新政はなぜくずれ、室町幕府はどのようなしくみで政治を行ったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 建武の新政と南北朝の動乱

南北朝の争い

けんむのしんせい
建武の新政

1334年、後醍醐天皇が始めた天皇中心の政治。

あしかがなかうじ
足利尊氏

建武の新政に反発して兵を挙げ、京都に別の天皇を立てた武士。

なんぼくちょうじだい
南北朝時代

京都の北朝と吉野の南朝が対立した、約60年間。

よしの
吉野

後醍醐天皇が移り、南朝を開いた奈良県の山あいの地。

鎌倉幕府がほろびると、後醍醐天皇は1334年、天皇が自ら政治を行う**建武の新政**を始めた。しかし、公家を重んじる政治を進めたうえ、倒幕に加わった武士への恩賞も不公平だったため、武士の不満が高まり、新政は2年あまりでくずれた。

武士の不満を背景に兵を挙げた**足利尊氏**は、京都に新しい天皇を立てた(北朝)。後醍醐天皇は奈良の**吉野**に移り、自分こそが正しい天皇だと主張した(南朝)。二つの朝廷が対立する**南北朝時代**は約60年続き、争いは全国に広がった。

各地の武士は北朝方と南朝方に分かれて戦い、味方する側を変えながら領地を広げようとする者もいた。こうした争いの中で、各地の武士をまとめる守護の力が強まっていった。

2 室町幕府のしくみと足利義満

幕府のしくみ

しゅごだいみょう
守護大名

権限を強め、国を自分の領地のように支配するようになった守護。

かんれい
管領

室町幕府で将軍を補佐した役職。有力な守護大名がついた。

あしかがよしみつ
足利義満

室町幕府の3代将軍。1392年に南北朝を一つにまとめた。

1338年、足利尊氏は北朝から征夷大将軍に任じられ、京都に幕府を開いた。3代将軍の**足利義満**が京都の室町に「花の御所」とよばれる屋敷を建てて政治を行ったことから、この幕府を**室町幕府**という。義満は1392年、南朝と北朝を一つにまとめた(**南北朝の統一**)。

争乱の中で守護は権限を強め、国内の武士を家来にして、国を自分の領地のように支配する**守護大名**に成長した。将軍を補佐する**管領**には有力な守護大名がつき、関東には鎌倉府が置かれた。幕府は、守護大名の力に支えられていたのである。

1334年
建武の新政
2年あまりでくずれる

足利尊氏が北朝、
後醍醐天皇が南朝

南北朝時代
(約60年)

1392年
南北朝の統一
足利義満

問いへの答え

後醍醐天皇の建武の新政は、公家を重んじ、恩賞も不公平だったため武士の不満を招き、2年あまりでくずれた。足利尊氏が京都に開いた室町幕府は、力を強めた守護大名に支えられ、有力な守護大名が管領として将軍を補佐した。約60年続いた南北朝の争いは、3代将軍足利義満が1392年に統一した。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

